



「つながる。ハーベスト」第4弾

JIMBA (津別町)

立川 彰 氏



道内のオススメのワーク施設とそこで出会いを創り出すコンシエルジュをご紹介する「つながる。ハーベスト」。

その第4弾として、道東・津別町にあるコワーキングスペース「JIMBA」の立川彰さんにお話を伺いました。

「JIMBA」とは？

早速ですが、「JIMBA」のコンセプトを教えてください。

オープンして3年たち、少しずつ変わっているところもありますが、「冒険をシェアしよう」というのがテーマです。開拓時代に人や馬が泊まった「駅通」をイメージしており、元々は築80年の空き家でしたが、津別町が実施した「道東エリアリノベーションプロジェクト」の一環で、町の人たちと一緒にリノベーションして作りました。

古い建物ですが、吹き抜けにしたら雰囲気もいいし、大黒柱も今じゃお目にかかれなほど立派なものを使っています。椅子は東京オリンピックのメダルケースを作った町内の「山上木工」の椅子を使用しています。モニターや配信機材を揃えているので、生配信もできます。

配信機材まであるのは、「道東テレビ」を運営されている立川さんならではのですが、なぜコワーキングスペースを始めようと思ったのでしょうか。

元々船橋市(千葉県)で映像制作会社をやっていたのですが、自分でコワーキングスペースをつくって「インキュベーション」、つまり起業家の孵化器となる役割をずっとやりたいと考えていました。自分のところで起業してくれたら、上手いくも、いかないかも含めて一番面白いじゃないですか。ただ、船橋でやろうとすると、家賃だけで相当な額になるので、「コワーキングスペースとしては

立しなないと考えていました。

津別町との縁は、船橋の制作会社の時に、移住の 프로모ーション動画の作成依頼をいただいたことがきっかけです。その後、地域おこし協力隊として津別町に赴任したのですが、タイミングよく町のリノベーションプロジェクトでコワーキングスペース運営者の募集があり、空き家を活用したコワーキングスペースをつくり、起業する人にとっての仲間集めの場になったらいいなと思い、手を挙げました。

「JIMBA」はどのような形で利用できるのでしょうか。

ドロップ・インは2時間500円でご利用いただけます。また、オンラインサロンということで、月額1,100円払っていただければ、入口のカギをお渡しし、24時間JIMBAをご利用いただけるほか、「道東テレビ」の企画会議に参加できる特典もついています。

つながる。HUB

CO-LIVING JIMBA (ジмба)

築80年の空き家を町民ボランティア延べ500名の手によりリノベーションしてつくった、津別町唯一のコワーキングスペース。「道東テレビ」の事務所も所在しており、モニターや配信設備等も充実している。



住所：津別町幸町1 2  
H P : [www.facebook.com/jimba19](http://www.facebook.com/jimba19)  
※詳細はHPをご確認ください。

★津別町へのアクセス★

女満別空港から、車(レンタカー)で約30分



木材生産量日本一の津別町らしい内装。イベント等にも活用できるモニターや遊び心あるプランも設置されている。

JIMBAから「つながる。」

人や地域とつながるのがコワーキングスペースの魅力ですが、ここに来る津別の方々とのようにつながれるか教えてください。

毎週金曜に「JIMBAR」という週替りマスターによるバーをやっています。地元の野菜などを使って、町内の料理自慢の人が腕を振るうのですが、その日のマスターや他のお客さんとも交流してもらえます。

ことと同じくリノベーションプロジェクトで空き家を活用して建てられたゲストハウス「nanno-nanno」が近くにあるので、金曜日は津別に来て泊まり、夜は「JIMBAR」で町の人から情報収集してもらい、土日に行く場所を決めていただくという流れをつくりたいですね。

— 金曜日以外もここに来て、立川さんに相談すれば、地域の方などご紹介いただけるのでしょうか。

つながる。  
ヒト

株式会社道東テレビ 代表取締役  
JIMBAオーナー 立川 彰 氏



道東テレビ  
公式youtube  
チャンネル



静岡県裾野市出身。日本テレビ「1億人の大質問!?笑ってコラえて」のADから映像制作を始める。2012年、千葉県船橋市で映像制作会社「(株)キロックムービー」を創業。

2016年、津別町に地域おこし協力隊として移住。道東地方初となるインターネットテレビ局「道東テレビ」を開設。「あなた輝くまちテレビ」をテーマに地域のポジティブなニュースを発信しているほか、2019年には町唯一のコワーキングスペース「JIMBA」をオープンさせた。

「道東テレビ」としてこれまで地域の方を取材しているので、そういった方たちをご紹介することができます。

移住して6年経ちますが、取材を通して、地域をよく知ることができ、すごく良かったと思います。

— 何か「JIMBA」からのつながったエピソードを教えてくださいませんか。 —

最近隣にカフェが出来たのですが、かなり本格的なレベルで、とてもおいしいんですよ。

— 地元の方がつくられたんですか？ —

いえ、北見市（津別町から車で約40分）の方です。JIMBAがきっかけな

JIMBAの強み

— この施設はどのような方に利用していただきたいとお考えでしょうか。 —

起業したい人や地方で働くことがどんなことか体験してみたい人たちですね。まずは、この人たちがどんな暮らしをしているか知ってもらうためにも、津別町に来てもらえたら凄くうれしいです。何なら「JIMBAR」のマスターを体験したい人でも全然OKです（笑）

あと、起業される方は、必ずプロモーションを考えるタイミングがあると思います。そんな時に、うちは映像もつくれるのが強みです。

起業する人にとっては、「コワーキングスペースを使ってもらうだけでなく、情報発信もセットで出来るし、我々道東テレビにとっては、映像の仕事づくりにもつながるといって観点で、機会創出を目的にこの施設を運営しているところはあります。

— まわり、Win-Winの関係ですね！ —



津別のおススメ

— 津別町のおススメを教えてください。 —

市街地には美味しい飲食店が多く、夏なら津別岬は雲海のスポットになるので、おススメです。「ソノノ森ネイチャーセンター」というところでガイドツアーを行っているのですが、僕もガイドに弟子入っています。

あとは、中心部から20分程度の相生地区には道の駅があつて、十割蕎麦や自家製豆腐を食べられるほか、「クマヤキ」というおやきがヒット商品となっています。道の駅には旧国鉄相生線の駅舎もあり、歴史を感じられるのでお勧めしています。

ほかに、「しげちゃんランド」という私設美術館や、チミケツプ湖にある、ミシユランで1つ星を取ったオーベルジュ

津別名物「元祖クマヤキ」

津別町内の道の駅「あいおい」の代名詞ともいえる名物おやき。道産小麦を使った生地の中には、津別の近郊でとれた小豆でつくった自家製つぶあんがたっぷり。ナマクマ（つぶあん+生クリーム）やヒグマ（豆乳クリーム）といった味のバリエーションも楽しめます。



詳しくは道の駅「あいおい」HPをご覧ください



「チミケツプホテル」や、活潑（かつくみ）地区の小中学校をリノベーションした山上木工のシヨールーム「TSK KOOL（ツクール）」など、津別のおススメポイントは沢山あります！

— 最後に、このインタビューを見て、JIMBAに来られる方々にメッセージをお願いします。 —

地方で何かやりたいと思う人は来てもらって、実際に人と触れあってみようことで雰囲気がかめるのではないかと思います。空き家の数などを含めて、津別町は「余白」が多いので、何かやりたいことがある人は実現できる環境といえます。

私はキャンピングカー、中継車、キッチンカーを購入したのですが、都会だったら駐車場がネックになったりするじゃないですか。でも、こつちに来たら駐車場もいっぱいあるし、そういった意味でやりたいことを実現しやすい場所かもしれないと思っています。

大自然の中で働きたいとか、夢がある方は是非とも来ていただいて、仲間になってもらえればうれしいですね。

— ある意味、自己実現が出来る場所ということですね。 —

この施設も、普通の「コワーキングスペース」とは少し違いかもしれませんが、目的意識を持ち、「コアで関わりたい人にとっては良い場所か」と思います。同じように空き家を改修したゲストハウスもあるので、是非泊まりに来てくださー！

— ありがとうございます！次回もお楽しみに！ —